

・・・ TOPICS ・・・

- ・ 2023年度総会（第78回）・研究発表大会（第77回）のご案内
- ・ 2023年度立正地理学会評議員会のお知らせ
- ・ 臨地研究会の開催を希望される方へのお知らせ
- ・ 立正地理学会研究委員会の募集（新規）
- ・ 2021年度（第75回）立正地理学会研究発表大会報告
- ・ 地理学教室だより
- ・ 今年度卒業予定の学生会員の皆様へ
- ・ 会費納入のお願い
- ・ ホームページ確認のお願い

◆ 会 告

● 2023 年度総会（第 78 回）・研究発表大会（第 77 回）のご案内

2023 年度総会（第 78 回）・研究発表大会（第 77 回）を下記の要領にて開催いたします。

記

【2023 年度（第 78 回）総会】

1. 日 時 : 2023 年 5 月 1 日（月）を予定。
2. 実施方法 :
総会資料を一般会員には自宅に郵送したものを、学生会員は Microsoft Teams 上にアップロードされたものを確認していただきます。その後、一般会員は返信用葉書、学生会員は Forms にて書面表決書を提出していただきます。
3. 回答期限 : 2023 年 5 月 24 日（水）（総会日から 2 週間後程度を予定）

【2023 年度（第 77 回）研究発表大会】

1. 日 時 : 2023 年 6 月 3 日（土）10:00~16:30（予定）
2. 会 場 : 立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ
※ コロナ禍の収束を見据え、対面での実施を予定していますが、情勢によりオンライン同時双方向での実施に変更する場合があります。5月中旬を目安に実施方法を学会ホームページ上でお知らせします
3. 懇 親 会 : 情勢に基づき判断するため、現時点では未定です。
4. 研究発表 :
1) 申し込み

発表希望者は、2023 年 4 月 17 日（月）までに、学会ホームページの研究発表申込フォームからお申し込みください。研究発表申込フォームは、『[学会ホームページ](#) > [研究発表大会・総会](#) > [研究発表申込](#) > [研究発表申込フォーム](#)』にあります。お申し込みの際は、以下の枠内の内容が必要です。非会員の方が発表者になることはできません。

- ① 発表者氏名（共同発表の場合は、発表者に○印をつけてください）
- ② 所 属
- ③ 発表題目
- ④ 発表形式（いずれかを選んでください）：「口頭発表」もしくは「ポスター発表」
- ⑤ 連絡先（電話番号、E-mail アドレス）



研究発表申込フォーム

2) 形 式

口頭発表とポスター発表があります。発表希望者にはいずれかを選択して申し込んでいただきます。実施方法は前述の通り、学会ホームページ上で公開していきます。なお、口頭発表は、例年は発表時間 15 分、質疑応答 5 分の計 20 分で行っています。また、ポスターのサイズは A0 縦（短辺 841 mm, 長辺 1189 mm）1 枚とします。

3) 要 旨

発表者は要旨を必ず編集委員会にご提出ください。要旨は『地域研究』に掲載いたします。執筆要領は大会当日に編集委員会の受付で配付いたします。大会後、期日までにご提出ください。なお、発表要旨集は作成しません。

4) 配付資料

配付資料が必要な場合は、発表者が各自に必要な枚数を事前にご用意ください。配付資料のコピー・印刷等は受け付けておりません。なお、学内には有料のコピー機があります。

5. 地理写真展示

1) 申し込み

展示希望者は、2023年4月17日（月）までに、学会ホームページの地理写真申込フォームからお申し込みください。地理写真申込フォームは、『学会ホームページ > 研究発表大会・総会 > 研究発表申込 > 地理写真申込フォーム』にあります。お申し込みの際は、以下の枠内の内容が必要です。非会員の方が展示者になることはできません。なお、地理写真は研究発表ではありません。

① 氏 名
② 所 属
③ テ ー マ
④ 連 絡 先（電話番号、E-mail アドレス）



地理写真申込フォーム

2) 形 式

地理写真の台紙サイズは、A1 縦（短辺 594 mm、長辺 841 mm）1 枚とします。大会当日に所定の場所へ掲示し、大会終了後は各自でお持ち帰りください。写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。写真には内容・場所・撮影日時などのキャプションを付記願います。

6. 研究発表大会プログラム・会場案内について

学会ホームページ (<https://www.rismap.website/>) に 5 月中旬頃に掲載いたします。会員の皆様は、学会ホームページの随時確認をお願いいたします。

7. 展示について

例年、書籍販売などが行われていますが、2023 年度は未定です。

8. やむを得ない理由によって開催が困難な場合の対応

地震や台風またはその他のやむを得ない理由によって大会の開催が困難な場合は、学会ホームページでお知らせいたします。

● 2023 年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2023 年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。詳細については、評議員の方にメールにてご案内を送付させていただきます。

記

1. 日 時：2023 年 4 月 26 日（水）18:00 より
2. 実施方法：オンライン同時双方向
3. 議 題：1. 2022 年度事業報告の件
2. 2022 年度決算報告の件
3. 2023 年度事業計画案の件
4. 2023 年度予算案の件
5. その他（他に議題のある評議員の方は、集会委員会までお知らせ下さい。）



評議員会出欠フォーム

出欠は 2023 年 4 月 17 日（月）までに学会ホームページの評議員会出欠フォームから回答していただけますよう、お願いします。評議員会出欠フォームは、『[学会ホームページ](#) > [評議員会](#) > [評議員会出欠フォーム](#)』にあります。上記 QR コードよりアクセスしてください。

● 臨地研究会の開催を希望される方へ

2023 年度に臨地研究会の開催を希望される方は、以下の要領で実施案を作成し、2023 年 4 月 17 日（月）までに学会ホームページの臨地研究会開催申込フォームから集会委員会へご提出ください。臨地研究会開催申込フォームは、『[学会ホームページ](#) > [臨地研究会](#) > [開催を希望される方へ](#)』にあります。合同委員会等で協議し実施の可否を決定いたします。

なお、臨地研究会は日曜日または祝日に開催してください。貸切バス利用の場合は学会から 5 万円、徒歩の場合は 2 万 5 千円が最大で補助されます。お申込み多数の場合、またはお申込みの内容によってはご希望に添えない場合もありますのでお含みおきください。

1. 趣 旨
2. 日 時：20〇〇年〇月〇日（〇）開始時刻～終了予定時刻
3. 集合場所：〇〇線「〇〇駅」改札口 〇〇に集合
4. テ ー マ：「〇〇〇」
5. 案 内 者：〇氏名〇、〇氏名〇、〇氏名〇
6. 参 加 費：〇〇円
7. コ ー ス：〇〇→〇〇→〈昼食〉→〇〇→〇〇解散
*昼食は〇〇
8. 募集定員：〇名
9. 連 絡 先：参加を希望する会員が連絡するための氏名と E-mail アドレス



開催申込フォーム

● 立正地理学会研究委員会の募集（新規）

2023年度の研究委員会を募集します。希望者は下記に示した「立正地理学会研究委員会に関する内規」を熟読の上、内規5の内容を明記した申請書（立正地理学会ホームページに様式を掲載）を、副常任委員長宛に郵送（住所等は最終ページに記載）、またはメール（アドレス：geosoc@ris.ac.jp、件名：立正地理学会研究委員会応募）で提出して下さい。2023年4月14日（金）を締切日と致します。応募件数が多い場合は調整することがあります。

立正地理学会研究委員会に関する内規

1. 研究委員会の設置：立正地理学会に、研究委員会をおくことができる。
2. 目的：研究委員会は、地理学の研究・教育に資する成果を挙げることを目的とし、その調査・研究に対して、学会より研究費を補助する。
3. 研究委員会の所轄：研究委員会の募集・決定・審査・成果の開示等に関する一連の管轄は、副常任委員長が行う。
4. 研究委員会の募集：副常任委員長は前年度の秋に発行される学会ニュースにおいて、研究委員会の募集、書類の提出期限について告知する。同内容は学会ウェブサイト上でも告知する。なお、書類の提出期限は、当該年度初めとし、前年度末に発行される学会ニュースでも再度募集の告知をする。
5. 研究委員会の設立：研究委員会の設置を希望する会員は、研究委員会の代表者となり、研究テーマ、会員名、研究委員会成立後の追加募集人員、研究期間、研究の目的、予測される成果を明記し、決められた期限までに副常任委員長に提出する。なお、研究委員会は設立時に3名以上で組織する。また、学生会員も代表となることができるが、研究委員会には1名以上の一般会員を含むものとする。
6. 研究委員会の成立：副常任委員長は、申請内容に基づき研究委員会の成立の可否を常任委員とともに検討し、その結果を代表者に伝える。
7. 研究委員会成立の説明と委員の追加募集：副常任委員長は、成立した研究委員会の代表者名、研究テーマ、研究期間、追加募集人員等を当該年度の総会で説明し、学会ニュース、学会ウェブサイトに掲載する。また、研究代表者は必要に応じて学会ニュース、学会ウェブサイト上で委員を追加募集する。なお、研究委員会は広く会員に開かれたものであることが望ましい。
8. 研究委員会の発足：成立をみた研究委員会は、代表者が中心となって活動を行う。
9. 研究委員会の年限：研究委員会の活動期間は2年とする。ただし、その後1年間の延長を可とする。その場合、研究委員会の代表者は研究の中間報告書と延長する理由書を、副常任委員長に提出しなければならない。
10. 研究費：研究費は、1研究委員会に対して年額10万円を上限とする。予算は研究委員会の成立と同時に執行ができる。
11. 会計報告：会計年度は、立正地理学会の会計年度に準じる。毎年度末に当該年度の収支報告書に領収書を添えて、副常任委員長に提出しなければならない。
12. 研究委員会の終了：研究委員会の終了時には、終了報告書を副常任委員長に提出しなければならない。
13. 成果の公表：研究委員会の活動中にあつては、立正地理学会研究発表大会において、中間報告を行うこと。なお、研究委員会終了後は、口頭発表のほか、『地域研究』にその成果を投稿するものとする。
14. 内規の改廃：本内規は常任委員長または副常任委員長が発議し、評議員会の議を経て行うものとする。

（副常任委員長 片柳 勉）

◆ 2022 年度立正地理学会評議員会報告

2022年4月27日(水)18時より、Zoomを使用したオンライン開催にて、出席者28名、委任状提出者4名、計32名にて開催された。議事では、2021年度事業報告が島津常任委員長よりなされた。次に、2021年度決算報告が山田庶務会計委員長よりなされ、いずれの事項も承認された。引き続き、2022年度事業計画案・予算案が提出され、いずれの事項も承認された。さらに、2022・23年度役員案ならびに2022年度委員案が提出され、いずれも承認された。

(集会委員会)

◆ 2022 年度 (第 77 回) 立正地理学会総会報告

2022年度の立正地理学会総会は、新型コロナウイルス感染状況に改善がみられないため、5月10日(火)に書面決議方式にて実施された。同日公開で5月31日(火)を回答期限とした。総会資料では、2021年度事業報告、決算報告、会計監査報告、2022年度事業計画案・予算案、2022・23年度役員案、2022年度委員案に関する議案説明があり、学生会員はMicrosoft Teamsで資料を閲覧し、Formsにて決を採り、一般会員には資料と返信用ハガキを郵送して決を採った。その結果、最終有効回答数は205名であり、本総会が成立したことを確認した。そして、全議題が承認された。

(集会委員会)

◆ 2022 年度 (第 76 回) 立正地理学会研究発表大会報告

1. 2022 年度 第 76 回立正地理学会研究発表大会の概要

日 時：2022年6月4日(土) 9:20より

会 場：立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ2階

2. 立正地理学会功労賞

長年、学会の活動に貢献された以下の8名が学会功労賞を受賞されました。

岩間英夫会員、大山正雄会員、多田統一会員、田林明会員、永野征男会員、山辺功二会員、田村百代元会員、寺田稔元会員

3. 優秀卒業研究賞

2021年度卒業研究のなかから、特に優れた研究を行った浅名悠斗さん「富山市における中心商店街の変容：総曲輪通りと中央通りを事例として」と石井大誠さん「鶴見川水系における水文特性と汚濁負荷量推定」が、立正地理学振興会より優秀卒業研究賞を授与されました。

4. 名誉会員

長年、学会活動や運営に尽力された以下の3名が名誉会員となりました。

松井秀郎会員、山口雅功会員、高村弘毅会員

5. 第 76 回立正地理学会研究発表大会取材レポート

今回の大会で発表された研究の一部を紹介します。なお、学生委員による研究発表レポートは、『[学会ホームページ](#) > [学会ニュース](#) > [地理学教室だより](#)』に掲載しております。ぜひご覧ください。

深瀬浩三(立正大)：静岡県袋井市におけるメロン産地の維持要因

1990年代初頭からメロンの売上額が減少に転じた袋井市だが、一人あたりの作付面積の増加や作付回転数の増加、担い手育成部会の結成、企業との商品の開発などの取り組みから、生産者1人あたりの平均売上は向上していることが明らかとなった。しかしこれらの施策は、産地維持の直接の要因として結びついておらず、産地としては縮小傾向にある。

佐藤寛輝(立正大・院)：宮城県角田市における中小食品加工業者による原料野菜産地の形成

食品加工会社の進出により、角田市のナス生産者は非経済的なメリットを含めてナスの契約栽培を行っていた。しかし食品加工会社、種苗会社と生産者の間における行き違いの発生から産地が衰退した。地域外から進出した企業と地元企業、地元生産者の信頼関係の重要性が明らかとなった。

～ 学会に参加した学生の声 ～

地理学科1年 東ひなたさん

吉田国光先生の「地域で維持されるモノ・コトと保全・保護制度を巡る研究に向けた覚書」の発表を聴き、研究の間の立て方や考察の順序を学ぶことができました。異なる視点から地理的現象を考えることで、研究方法も様々に変化するという点に興味を持ちました。地図だけでは表せない細部まで含め、研究していく必要があります。これは重要なことだと理解できました。地理には多種多様な分野の発表があること改めて知ることができました。

(広報委員 横山華音)

6. その他

立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ 1階において、立正大学学園開校 150周年記念事業「地球環境科学部ウィーク」の一貫として、「江戸・東京の地図展」と「アジアの民族衣装と民具展」の展示が行われました。

☆ 地理学教室だより ☆

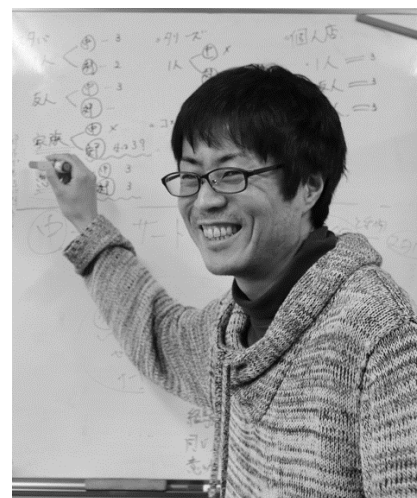
□ 新任の先生よりご挨拶

立正大学地理学科では 2022 年度から吉田国光先生と川添航先生の 2 名の新しい先生をお迎えいたしました。今回の地理学教室だよりでは、お二人からのご挨拶を掲載いたします。

○吉田 国光 先生

2022 年 4 月より立正大学地球環境科学部地理学科に准教授として着任しました吉田国光と申します。2006 年に関西学院大学文学部史学科地理学専修を卒業後、筑波大学大学院生命環境科学研究科地球環境科学専攻に進学し、2011 年 7 月に博士(理学)を取得しました。その後、研究職歴としては 2010 年 10 月より熊本大学政策創造研究教育センターに特任助教として着任しました。熊本大在職時には本学会会長である山中進先生にとってもお世話になりました。その後、金沢大学学校教育学類で准教授として 10 年間勤務し、現在に至ります。

専門は農村地理学と自称しております。これまで森林や農地、海面といった「資源」の利用動態について、個人や世帯、集落などの様々な地理的スケールで展開する主体間の関係を分析することから明らかにしようとしてきました。研究対象に取り上げた農林漁業等の生



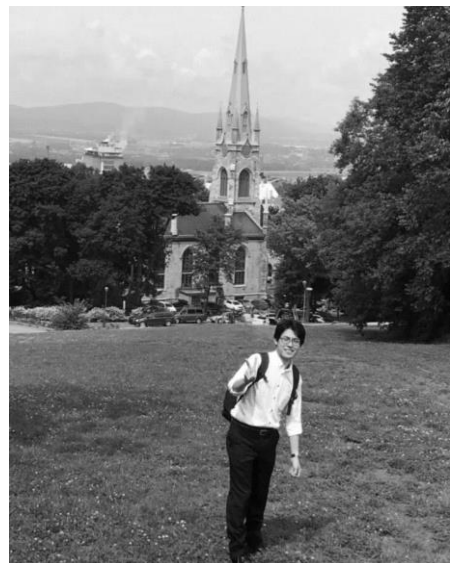
業活動は、経済活動という役割以上に自然環境や、年中行事などの社会的活動と密接に関わるものであり、多様な側面を持ち合わせています。

こうした問題意識から派生して、伝統的な景観（棚田や山腹斜面、漁村景観など）や地方都市の在来工業が、いかにして維持、もしくは変容してきたのかを、様々なスケールで展開するファクターと関連づけて説明しようと論文化を図ってきました。農林漁業や在来工業、伝統的景観と研究対象に一貫性がないようにみえますが、経済合理性だけでは測りきれない人間活動の機微を読み解くというアプローチにこだわり、眼前に広がる事象が成立しうる仕組みを明らかにしたいという姿勢は一貫させてきたつもりです。

こうした「下手の横好き」は学生の多様な興味のもとに進められる卒論指導に活かされると思っています。そして学術誌に投稿可能なレベルの卒論を執筆してもらえるようにサポートし、一人でも多くの学生が「立正大学で地理学の研究をできた」と思って卒業できるように努めたいと考えています。

○川添 航 先生

2022年4月より地理学科助教に着任しました川添 航と申します。高校卒業までは三重県に、大学院修了までは茨城県に居住していました。研究領域は宗教の地理学であり、東アジアにおける地域社会の変化と宗教活動との関係に関心を持っています。これまで、国際移住者による宗教施設でのコミュニティ活動を対象に、関東地方（日本）や京畿地方（観光）に所在するキリスト教会やモスクを事例に調査を行い、移住者の日常生活における宗教の役割を分析してきました。現在は、これらのテーマに加え、地域社会と宗教との関係の変化に対応し、ツーリズムや伝統工芸等がどのように変容してきたのかについても調査を進めています。学生の皆さんには、自分自身の「好き」や「推し」が研究テーマにもなる地理学の裾野の広さや面白さを伝えることができればと思います。皆様どうかよろしくお願い申し上げます。



◆ 今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。研究発表大会は、友人との再開の場としても良いでしょう。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、卒業証書授与式で配布する継続届を記入の上、『地域研究』『学会ニュース』に同封する払込取扱票にて5月末日までに会費をご納入下さい。他大学や大学院などに進学される方は学生会員（年会費 2,500 円）、それ以外の方は一般会員（年会費 4,000 円）となります。

なお、継続をしない場合でも、卒業証書授与式で配布する継続届に、4月以降に郵便物が受け取れる住所をご記入のうえ、提出してください。2022年度発行の印刷物を発送する場合があります。

会費納入のお願い

2022年度分までの会費納入状況については、「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を先日別送しておりますので、ご確認下さい。また、過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

- ・ 会費：一般会員 4,000円 / 学生会員 2,500円
- ・ 郵便振替口座：00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下の通りです。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッシュウチリガクカイ

- ※ 学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際は、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。
- ※ 今年度をもって退会を希望される方は、4月17日(月)までにご連絡下さい。ご連絡がない場合は、自動的に次年度継続として、会費の請求を行わせて頂きます。
(庶務会計委員会)

◆ ホームページ確認のお願い

立正地理学会では、2019年のホームページリニューアルより、ウェブ上での情報発信により一層の力を入れております。重要なお知らせや緊急のご案内等、学会ニュースではご案内できない速報性のある情報もご案内しておりますので、会員の皆様におかれましては、こまめな学会ホームページのご確認をお願いいたします。

(広報委員会)

編集後記

日増しに春めく今日この頃、新型コロナウイルスの規制も緩和されつつあり、皆様の外出の機会も増えてきたかと存じます。日頃は会員の皆様には本会の運営にご協力いただき、心より御礼申し上げます。春は別れの季節であると同時に、出会いの季節でもあります。もうすぐ始まる新年度に心機一転、春風とともに幸せが訪れますようお祈りいたします。

(広報委員 岩谷恭弥)

立正地理学会ニュース No.131

2023年3月28日発行

編集者 立正地理学会広報委員会

発行者 立正地理学会 〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700 立正大学地理学教室内
TEL 048-539-1672 E-mail geosoc@ris.ac.jp
Web <https://www.rismap.website/> 振替 00130-8-13453



立正地理学会ホームページ